

国

語

(60分)

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かず、  
左記の注意事項をよく読むこと。

### 注 意 事 項

- 1、問題冊子は、20ページまであります。
- 2、解答用紙は問題冊子の中央にはさんでいます。解答はすべて、解答用紙に書き込みなさい。
- 3、始め、の合図でページ数を確認し、受験番号・名前を書きなさい。
- 4、問題の内容についての質問には、いっさい応じません。印刷のはっきりしないところがあれば、静かに手をあげなさい。
- 5、時間を知りたいときも、静かに手をあげなさい。
- 6、具合が悪くなったり、トイレに行きたいときは、手をあげて監督の先生の指示に従って行動しなさい。
- 7、問題冊子は、各自持ち帰ってよろしい。



一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし設問の都合上、本文を一部改めた箇所があります（なお字数制限のある問いは句読点や記号も一字に含みます）。

少し違う角度から学校の知の意義を話しましょう。①一つ目は、経験は【X】し、経験し続けるだけでこの世の中のいろいろなことを学べるほど人生は【Y】ない、ということですよ。

十九世紀ドイツの「\*鉄血宰相」と言われた\*オットー・フォン・ビスマルクが、一愚者は経験から学ぶ、賢者は歴史から学ぶ」と言ったと言われています。正確には少し違うようですが、なかなか味わいのある言葉です。

愚かな人は自分が経験したところから学ぶ。賢者はほかの人の経験、すなわち、歴史の中の誰かの成功や誰かの失敗、そういうものから学んで、自分の目の前に生かしていく。そういう意味の言葉です。

身近な問題を日常的にこなすためには、多くの場合、自分の経験だけで大丈夫かもしれません。しかし、身近で経験できる範囲の外側にある問題や、全く新しい事態にある問題について、考えたり、それに組み組んだりしようとすると、身近なこれまでの自分の経験だけではどうにもなりません。

たとえば、何年も商売をやっていると、商売のこつを覚えたりお客さんとの関係ができたりします。難しい言葉も文字式も、社会も理科も、そこには不要です。A、ある日、「今、自分たちの市で起きている再開発計画について、商店街

のみんで対応を考えましょう」という話になったら、商売の経験だけでは対応できません。手／書類／入れ／再開発計画／を／に／の／目を通したり、法令を調べたり、みんなで議論をしたりすることが必要になります。それには、経験で身につけた日々の商売の知識や\*ノウハウとは異なる種類の知が必要になるのです。日々の経験を越えた知、です。

あるいは、会社に入ってからどこかの営業所に配属されて、一生懸命に頑張っていたけれど、突然、「東南アジアに行って、工場を造る責任者をやれ」とか言われた場合を考えてみてください。田舎町での営業のノウハウでは対応できません。④そ

こでも、今まで経験で身につけたことのない知が必要になります。

\* ジョン・デューイという非常に有名な教育哲学者が『民主主義と教育』（岩波文庫、松野安男訳）という本の中で、次のように書いています。「経験の材料は、本来、変わりやすく、当てにならない。それは、不安定であるから、無秩序なのである。経験を信頼する人は、自分が何に頼っているのかを知らない。なぜなら、それは、人ごとに、また、日ごとに変わり、そして言うまでもなく国ごとにも変わるからである」。ある人が経験するものは、たまたまそれであって、偶然的で特殊なものなのです。

それどころか、個人の経験というのは、狭く偏っていたりもします。デューイは、次のように述べています。「経験からは、信念の基準は出てこない。なぜなら、多種多様な地方的慣習からもわかるように、あらゆる相容れない信念を誘発するのが、まさに経験の本性そのものだからである」。

つまり、経験は大事だけれども、それはどうしても狭い限定されたものでしかありません。

つまり、経験は大事だけれども、それはどうしても狭い限定されたものでしかありません。 [B]、経験から学ぶというときに、経験の幅を少しずつ広げていくには結構時間がかかります。少しずつ経験を広げたり、何度も失敗したりするためには、人の人生はあまりにも時間が限られています。

[C]、文字による情報を通して、ほかの人の成功や失敗がどうだったのかとか、ほかの人の経験がどうなのかということや、学校で学ぶ社会科や理科、外国語や数学の知識などが役に立つはず。⑥ 何せ、学校の知は「世界の縮図」なので、学校で学ぶ社会科や理科、外国語や数学の知識などが役に立つはず。何せ、学校の知は「世界の縮図」なので、学校で学ぶ社会科や理科、外国語や数学の知識などが役に立つはずです。

〈中略〉

二つ目に話したいのは、知識があるかないかで経験の質は違うということ。知識か経験か」という二項対立ではなく、そもそも経験の質は、知識があるかないかで異なっているのです。

ここでも再びデューイの議論を紹介<sup>しやうかい</sup>します。一つ目は、十分な知識があれば、深い意味を持つ経験ができる、ということです。デューイは、同じように望遠鏡で夜の星を見ている天文学者と小さな少年との違いを例に挙げて論じています。望遠鏡で見えている星は同じです。だけれども、そこ<sup>⑦</sup>から読み取るものは全然違うということです。望遠鏡を覗<sup>のぞ</sup>いている小さな少年は、「赤く光る星がきれいだなあ」と思うかもしれません。しかし、同じ星を同じような望遠鏡で見ている天文学者は、「この光の色は、星の温度や現在の状況<sup>じやうきやう</sup>を伝えている。この星の色をどう考えればいいんだ」ということを考えながら星を見たりするでしょう。そこ<sup>⑧</sup>から、宇宙の謎<sup>なぞ</sup>が解明できるかもしれません。「単なる物質的なものとしての活動と、その同じ活動がもつことのできる意味の豊かさとの間の相違<sup>さうい</sup>ほど著<sup>いちじ</sup>しいものはない」とデューイは述べています。

これは私<sup>わたし</sup>たちもよくあることです。D、海外旅行でどこか歴史的な建造物を見に行くという話になったときに、歴史を知っているか知らないかで興味の持ち方や見方が全然違<sup>ちが</sup>います。歴史を知らない人は、「大きいな」とか、「古いな」とか、「壊<sup>こわ</sup>れかけているな」とか、「人がいっぱいいるな」とか、そんなことを思いながら建物内を歩いています。それに対して、歴史を知っていて、なぜこの建物がこういう形で残っているか知っている人は、「あの物語に出てきたあの建物だ」とか、「この柱は何やら様式で、何やら王が趣味<sup>しゆみ</sup>で造らせたんだ」とか、そういうふうに楽しみ方がまったく違います。同じものを見ても質の異なる経験になる。知識があるかないかで経験の質が違うのです。

デューイが言っている知識と経験の話でもう一つなるほどと思うのは、まだ経験していないもの、これから何が起きるかといったことを考えるために、既存<sup>きぜん</sup>の知識が必要だ、と述べているくだけりです。

デューイはそれをこういうふうに書いています。「知識の内容は、すでに起こったこと、終<sup>しゆうり</sup>了<sup>りょう</sup>し、またそれゆえに解決され、確実であると考えられているものなのであるが、知識<sup>⑨</sup>の關係する先は未来すなわち前途<sup>ぜんと</sup>なのである。というのは、知識は、今なお進行中のことや、これから行なわれようとしていることを、理解したり、それに意味<sup>あた</sup>を与えたりする手段を提供するからである」。私はここを読んで、「ああ、なるほど」と思いましたね。

デューイが挙げている例は医者いしやの例です。目の前の患者かんじやの症状しやうじやう、頭あたまが痛いとか喉のどが痛いとか、\*既往症きわうしやうが何かとか、こういうのを全部総合して考えると、これはこういう病気びんきでこれからこうなるから、そうすると投与とうよすべき薬くすりはこれだとか、そういうふうに考えます。そのことをデューイは、「直面する未知の事物を解釈かいしやくし、部分的に明らかめいらかな事実をそれと関連して思い当たる諸現象で補充ほじゅうし、それらの事実の起り得る未来を予見し、それによって計画を立てる」と述べています。十分な知識があつてこそ、「目の前の患者かんじやを診る」という新しい経験に、適切に対応できるわけです。

同じように、われわれは、世の中のあるこれについての知識を持っていて、それを使って、現状を認識し、未来に向けた判断をするのです。知識は常に過去のもので、過去についての知識を組み合わせて現状げんじやうを分析し、未来に向けているなことをする。これが知識の活用の本質です。

(広田照幸『学校はなぜ退屈たいくつでなぜ大切なのか』による)

(注)

\*鉄血宰相……ビスマルクの呼び名。軍備拡張を訴うったえた時に「鉄と血だけが問題を解決する」と演説したことから呼ばれるようになった。

\*オットー・フォン・ビスマルク……ドイツの政治家。一八一五〜一八九八。

\*ノウハウ……物事を行うときの進め方に関する知識。

\*ジョン・デューイ……アメリカの哲学者てつがく、教育学者。一八五九〜一九五二。

\*既往症……今は治っているが、これまでにかかった病気。

問1 傍線部①「二つ目は、経験は【X】し、経験し続けるだけでこの世の中のいろいろなことを学べるほど人生は

【Y】ない」の【X】・【Y】にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア X 浅い Y 甘くあま  
 イ X 楽しい Y 楽で  
 ウ X つらい Y 面白く  
 エ X 少ない Y 短く  
 オ X 狭いせま Y 長く

問2 傍線部②「愚者は経験から学ぶ、賢者は歴史から学ぶ」とありますが、その意味として最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 愚者は自分のことを第一に考えて行動しようとするが、賢者はまずほかの人のことを考えて行動しようとする。  
 イ 愚者は自分一人で主体的に物事を解決しようとするが、賢者はほかの人の力を借りて受動的に解決しようとする。  
 ウ 愚者は今のことのみから物事を考えようとするが、賢者は昔と今とを比較ひかくしてどちらが良いか考えようとする。  
 エ 愚者は自分が実際にやったことだけで考えようとするが、賢者は昔の人が知ったことも生かして考えようとする。  
 オ 愚者は自分が生きている時代のことしか考えないが、賢者は過去の社会を参考に将来のことも考えようとする。

問3 A D にあてはまることばとして最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ただし、同じ記号を二回以上選んではいけません。

ア たとえば      イ しかも      ウ しかし      エ なぜなら      オ むしろ

問4 傍線部③「手／書類／入れ／再開発計画／て／を／に／の／」を意味が通じるように、正しい順序に並べ替へなさい。  
い。

問5 傍線部④「そこでも、今まで経験で身につけたことのない知が必要になります」とありますが、この場合は具体的にどのような知識が必要だといっているのですか。解答らんに合うようにそれぞれ十字程度で説明して書きなさい。

I ためではなく II ために必要な知識。

問6 傍線部⑤「経験からは、信念の基準は出てこない」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア わたしたちの経験は、日々の生活を送る中で出会うものを積み重ねていくため、たとえ経験は知識にはなっても、人生のよりどころとはならないから。

イ わたしたちの経験は、人ごとに多様であり、その上地域によっても異なるので、いつでもどこでも通じる人生の指針を学ぶことは困難だから。

ウ わたしたちの経験は、まったく新しい事態に取り組むには十分ではないので、経験豊富な先人たちの言葉に耳を傾けて学ぶことしかできないから。

エ わたしたちの経験は、本来、変わりやすく当てにならない不安定なものなので、たとえ賢者に学んでもわたしたちの人生には役立たないから。

オ わたしたちの経験は、多種多様で相容れない信念を導き出すこともあるが、愚かな人には自分の目の前のことに活かしていく力が備わっていないから。

問7 傍線部⑥「学校の知は『世界の縮図』」とありますが、これはどういうことを言っていますか。最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 学校で教えられることは、日本だけでなく世界中で通用する知識であるということ。
- イ 学校で教えられることは、文字の読み書きにとどまらないレベルの高い知識であるということ。
- ウ 学校で教えられることは、あらゆる分野から集めてきた本質的な知識であるということ。
- エ 学校で教えられることは、自分が経験しない外国での出来事に関する知識であるということ。
- オ 学校で教えられることは、誰<sup>だれ</sup>とでも共有できて利用価値のある知識であるということ。

問8 傍線部⑦「そこ」、傍線部⑧「そこ」の具体的内容を説明したものととして最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 前者は星の様子をそのまま受け取ること、後者はそれに疑問を持って見ること。
- イ 前者は望遠鏡に映る星の様子のこと、後者は星の光の色がもつ意味を考えること。
- ウ 前者は少年が見て理解した星の様子のこと、後者は天文学者が見て理解した星の様子のこと。
- エ 前者は星の様子を感覚的に受け取ること、後者は学問的・論理的に受け取ること。
- オ 前者は星の色や美に注目することで、後者は星の温度や現在の状況<sup>じょうきょう</sup>に注目すること。

問9 傍線部⑨「知識の関係する先は未来すなわち前途」とありますが、その具体例として誤っているものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア このあたりは人が多く住んでおり、小学校も近いので、飛び出しに注意して車を運転した。
- イ 冬山登山の厳しさやこの山の登頂の難しさは以前から知っていたので、今回は計画を変更した。
- ウ 被災地の厳しい現状に心を痛め、もともと予定していた量より多くの支援物資を送ることにした。
- エ この地域では若い世代の流入と高齢世帯の流出が顕著とわかり、公園や学校の増設を優先することにした。
- オ 以前ツバメが低く飛び、朝焼けが見られた時に雨が降ったので、天気予報は晴れだが傘を持っていった。

問10 本文では知識があることでどのようなことが可能になると筆者は述べていますか。本文全体をふまえて三つの点にふれながら、解答らんに合うように六十字以内で書きなさい。

② 「道」と「羽衣子」の兄妹は亡くなった祖父のガラス工房を引き継いだ。二人はかつて祖父の旧友の繁実さんのもとの修業していた。次の文章は、病院から退院した繁実さんに羽衣子がいに行く場面から始まる。これを読んで、後の問いに答えなさい。ただし設問の都合上、本文を一部改めた箇所があります（なお字数制限のある問いは句読点や記号も一字に含みます）。

ひさしぶりに会う繁実さんは、想像していたよりずっと元気そうに見えた。でもやっぱり以前よりはずっと痩せている。それは\*咲さんも同様で、なんだかひとまわり小さくなったようだ。

「やっと退院できた」

マスク越しでもわかるほど細くなった頬を撫でながら笑っている繁実さんから目をそらす。

「道と、ちゃんと仲良くしてるか？」

「それなりに」

道は\*西尾さんの\*骨壺を完成させた。明日、納品に行くことになっている。

居間の畳の目を、指先でなぞる。脱水症状をおこしてここに寝かされた日のことがよみがえる。焦るな、と繁実さん

はあの時言った。毎日同じ仕事を続けることこそが最大の修業だ、というようなことも。

「でも、差が開いていくばかりです」

「ほお」

「いっそ、道のサポート役に徹する、と割り切れたら楽なのかなと思う時もあります」

咲さんがお茶を運んできた。湯呑の底で桜の花びらが揺れている。あ、と目を上げると、咲さんが微笑んだ。

「そうやるか。俺は、羽衣ちゃんと道は、技術でもなんでもぜんぶ同じぐらいやと思うけどな」

「そんなことはぜったいにいいです」

西尾さんが手にとったのは、道のものばかりだった。母もそうだ。いつだったかレシピ本の撮影のために選んだ器だつてぜんぶ道がつくったものだった。わたしがそうこぼすと、繁実さんと咲さんは顔を見合わせ、それから異<sup>③</sup> **A** 同 **B** に「好みちゃう？」と、**C** <sup>④</sup>も蓋もないことを口にする。

「え、だって、そんな」

「だってそうやんか。吹きガラスやで。工業製品なら規格があつて、それをクリアしてれば合格、より近づけられるほうが優秀、って話になるけどな。そんなん、好みや、好み」

「でもわたしは、道には、自分には、その、才能がある、と思つて。もうあんまり張りあうのはやめようつて、何年もかかつて、道を認めることができたんです」

「才能？ ははは」

繁実さんが肩を揺すつて笑い、それから苦しそうに息を吐いた。まだ体調が万全ではないのかもしれない。

「ないよ。道に特別な才能なんかない」

「だって、道は」

「人と違うから、か？」

繁実さんはもう笑っていなくなった。まっすぐに見つめられて、思わず目をそらした。

「\*発達障害やっただけ。俺もよう知らんけど」

「いえ、検査を受けてないから、はつきりとは」

まあそれはどっちでもええねん、と繁実さんが首を振る。

「俺にとっては、道は道やからな。診断がどうか、心底どうでもいい。俺は道にどんな障害があるかやのうて、道自身

が今なにを見て、なにを考えてるかが知りたい。認めるってどういうことや。そら、なんかの障害とセットで特別な才能に恵まれた人間もおるんやろ。でも、障害があるからかならず才能もあるはず、みたいな考えかた、俺は嫌いや。それこそが差別と違うんか。あなたは他人と違った人間だけど、特別ななにかを持ってますね、ならこの世に存在していいですよ、認めてあげますよって言うてるみたいで、ぞっとするなあ」

そんなことない、と言おうとして、喉の奥がかつと熱くなる。そんなことない？ なにが？ いったいなにが、どう、そんなことないと、わたしは言おうとしたのか。

繁実さんの呼吸の間隔が短くなっている。咲さんが心配そうにその背中をさすり出した。湯呑を一気に干したら、口の中で花が咲く。ほんのりとした苦みが広がった。

「わたしは」

わたしは。二度言ったが、後が続かない。まだまだですね、と言ったら、恥ずかしさで唇が歪んだ。

わたしは、なんにもわかっていない。

あと何回。泣きそうになりながら、わたしは膝の上で自分の手を握りしめる。あと何回驚けば、恥をかけば、わたしは「わかっていない人」ではなくなるんだろう。気が遠くなるほど遠い道のりに思えた。

「まだまだやな。けど、羽衣ちゃんだけちゃうで、俺もそう。たぶんみんな生きてるあいだはこれでじゅうぶん、なんてないんちゃう？」

きつい言いかたしてごめんな、と繁実さんが眉を下げる。

「いえ、そんなことないです」

「でもなんか、もどかしい感じがしてなあ。羽衣ちゃんを見てると。道と同じぐらいええもん持ってんねんから、自信持ったらええねん」

才能とかセンスとかは目に見えへんから、と繁実さんはふっと息を吐いた。

「そんなふわつとしたもんに頼ってやっていくのは、苦しいことや」

「じゃあ、なにに頼ればいいんですか」

涙声で問うと、繁実さんが視線を落とした。

「昨日も、おとついても、羽衣ちゃんはガラスに向きあった。その事実があるやないか」

繁実さんはわたしの手を見ている。すこし遅れてそのことに気がついた。

今はすこしふるえている、わたしの手。やけどのあとだらけの、この手。

⑥「その手見たら、わかるで。羽衣ちゃんが今までずっとがんばってきたこと、ちゃんとわかる」

それ以上、誰もなにも言わなかった。家の外で、鳥が高く鳴くのが聞こえる。

須磨に向かう電車に揺られながら、知らないあいだに眠ってしまったようだった。はっと姿勢を正して、髪を整える。

今はどこを走っているのだろうかときよろきよろしたけど、目的地まではまだだいぶかかるようだった。ああよかったと胸をなでおろしたものの、もう眠気はすっかり消え失せていた。

〈中略〉

前回は電車ではなく、父の車で来た。母と、道も一緒だった。祖父母は留守番をしていた。

八月の暑い日だった。道路はひどく混んでいて、父の車の冷房は効きが悪かった。ラジオから流れる音楽がうるさいと

母は顔をしかめ、父は仏頂面でガムをかみ続けた。

わたしは四歳で、はじめての海水浴だった。何日も前から買ってもらった浮き輪を身体に装着して家の中をうろろろしてしまうほどのしやぎようだったのだが、車内で両親の機嫌がどんどん悪くなっていくのを感じとり、徐々に不安になっていった。

「降りる」

その時、道がとつぜんそう言い出した。真つ青な顔をしていた。振り返った母が車に酔ったのかと訊いたが、道は答えなかった。もう十二時だ、お母さんは十一時には海水浴場について、ついたらお昼ごはんを食べると言ったのに予定と違う、と泣き出した。

あの頃の道は今以上に、予定通りに行動することへの強いこだわりがあった。だから母はどこかに行く時はあらかじめ道に説明して、その通りに行動するようにしていた。何時頃の電車に乗るよ、どこそこで何を買うよ、と。その通りに事が運ぶ場合はいいが、大幅にずれると落ちつきを失ってしまう。

⑦「降りる、降りたい、今は車に乗ってる時間とちゃう」

シートベルトを外し、ドアをどンドン叩いて、道はわめき散らした。うるさい黙れ、と父が怒鳴ると、ますます声が大きくなった。

母は助手席から手を伸ばして懸命になだめようとしたが、その都度、父の声がそれを遮った。ぜんぶは覚えていないけど、道がこんな子なのはお前の育てかたが悪いせいや、もっと厳しくしつけをせんからや、というような内容だったことはたしかだった。父と母の口論はどんどん激しさを増して、そこから先はもう聞きとれなかったし、もし聞きとれたとしても四歳のわたしには理解できなかっただろう。

そんなこんなでようやく海水浴場について頃には全員ぐったりしていて、その後どうしたのか、泳いだのかどうかとも記憶が定かではない。海の水が塩辛かったことは覚えているから、いちおう泳いだことは泳いだのだろう。

両親の仲が悪いのは道のせいだと思いきみ、恨んでいた。道がいなければ、わたしたち家族は幸せなのに、と。ほんとうは本人がいちばん苦しんでいたのに。あたりさわりなく、とか、臨機応変に、とか、そういうことができないう自分をもてあましていた道。わたしたちがもつと道を知ろうとすれば、違うかかわりかたをすれば、感じずに済む類の苦しきさだっ

たと、今になって気づく。

昨日繁実さんの家を出て歩きながら、しばらく泣いた。がんばって来た、という言葉は何度も反芻した。わたしはたぶん、ずっと誰かにそんなふうと言ってほしかったんだと思う。

道も苦しかったのかもしれないけど、わたしだって苦しかった。母にもっとわたしを見てほしかった。認めてほしかった。

「道と同じぐらいええもん持つてんねんから」という繁実さんの言葉を、まだ心から信じられない。でも、まずは、認めてあげたいと思う。承認の言葉を周囲に求めるんじゃなくて、わたし自身が、わたしを認めてあげないと。

風に乗って、潮の香りがする。いつだったか道が言っていた。ガラスを吹く時はいつも、海のことを考えていると。

わたしたちは広い海に浮かぶちっぽけな一艘の舟のように頼りない。それでもまずは漕ぎ出さねば、海を渡りきることはできない。

歩いているうちに、額ににじんできた汗を、ハンカチでそっと押さえた。

(寺地はるな『ガラスの海を渡る舟』による)

(注)

\*咲さん……繁実さんの奥さん。

\*西尾さん……ガラスの骨壺を注文していたお客さん。

\*骨壺……火葬された人の骨を入れるための容器。

\*発達障害……生まれつき発達に偏りがあることによって、行動や情緒に特徴がある状態のこと。

\*反芻……くり返し考えたり、よく味わったりすること。

問1 傍線部①「繁実さんから目をそらす」とありますが、その理由として最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 以前の元気だった頃と違って、すっかりやせてしまった繁実さんを見るのがつらかったから。
- イ 繁実さんを心配させてしまうので、道と仲良くできていないことをさとられたくなかったから。
- ウ 道との衝突を心配する繁実さんに対し、道と仲良くできないことが後ろめたかったから。
- エ 祖父と仲の良かった繁実さんに対し、自分がいつまでも上達しないことを申し訳なく思ったから。
- オ 本当は苦しいのに元気なふりをする繁実さんに対し、顔も見たくないほど腹が立ったから。

問2 傍線部②「焦るな」とありますが、どのようなことに対して「焦るな」と言っているのですか。その説明として最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア すぐに起き上がり仕事に戻れないこと。
- イ すばやくガラスの商品を作れないこと。
- ウ ガラス作りが思うように上達しないこと。
- エ 道のサポート役に徹するかどうか決められないこと。
- オ 同じ事のくり返しのせいで上達の実感を得ていないこと。

問3 傍線部③「異 **A** 同 **B**」、傍線部④「**C** も蓋もない」の **A**、**B**、**C** にあてはまる言葉をそれぞれ漢字一字で書きなさい。

問4 傍線部⑤「それ」とあるが、その具体的内容を説明したものとして最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 道に特別な才能があるかどうか      イ 道が検査を受けたかどうか

ウ 道が私を意識しているかどうか      エ 道を認めてやるべきかどうか

オ 道が発達障害であるかどうか

問5 二重傍線部X「もどかしい」、Y「仏頂面」、Z「あらかじめ」の語句の意味としてそれぞれ最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

X「もどかしい」

ア じれったい      イ はっきりしない      ウ よくわからない

エ もつたいない      オ 待ち遠しい

Y「仏頂面」

ア あせった顔つき      イ 不機嫌ふきげんな顔つき      ウ のんきな顔つき

エ 無関心な顔つき      オ 温和な顔つき

Z「あらかじめ」

ア 細かく      イ 前もつて      ウ 何度も      エ わかりやすく      オ ていねいに

問6 傍線部⑥「それ以上、誰もなにも言わなかった」とありますが、その理由として最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 泣いている羽衣子を慰めようとしても、繁実さんの言葉以外に彼女にかける言葉を誰も思いつかなかったから。  
イ 才能に恵まれない羽衣子は努力するしかないことを皆はわかっており、繁実さんの言葉に納得したから。  
ウ やけどだらけの羽衣子の手を見て、誰にも認められない彼女をかわいそうに思い、かける言葉がなかったから。  
エ 繁実さんの言葉は誰にとつても胸に響く言葉であつて、それ以上付け加えるものなどなかったから。  
オ 羽衣子が落ち込んでいる暗い雰囲気の中で、誰も口をはさめず、時が経つのを待つしかなかったから。

問7 傍線部⑦「シートベルトを外し、ドアをどンドン叩いて、道はわめき散らした」とありますが、今、羽衣子は道のこのような行動に対して、どうすべきだったと考えていますか。解答らんに合わせて、 I は二十字以内、 II は十字以内で本文中から抜き出しなさい。

家族みんなが道の  I に対して、 II をするべきだった。

問8 傍線部⑧「しばらく泣いた」とありますが、その理由として最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 周りの人たちから同情されている自分がふがいなく、情けない思いについて耐えられなくなったから。
- イ 繁実さんにきつい言葉で責められて、泣くのを我慢していたが、家を出てこらえきれなくなったから。
- ウ 周りの人は道だけでなく自分にも目を向けてくれていることを知って、心からうれしさを感じたから。
- エ 道も苦しかっただろうが、自分も苦しかったことが思い出され、つらさに涙がこらえられなくなったから。
- オ 道よりもがんばってきたと認めてもらえたことで、長年の劣等感をぬぐうことができうれしかったから。

問9 傍線部⑨「広い海に浮かぶちっほけな一艘の舟のように頼りない。それでもまずは漕ぎ出さねば、海を渡りきることはできない」とありますが、羽衣子のどのような思いを表していますか。わかりやすく七十字以内で説明しなさい。

㊦ 次の傍線部のカタカナを漢字に書き改めなさい。

- ① 神社にサンパイする。
- ② 酸素をキュウニユウする。
- ③ 多額のイサンを相続した。
- ④ 国のセイサクに意見する。
- ⑤ ヨウシヨウのころの記憶をたどる。
- ⑥ 三角形の頂点からスイセンを引く。
- ⑦ 各国首脳とカイダンする。
- ⑧ 歩道のガイロジユの整備。
- ⑨ 痛みをシンシヨウボウダイに訴える。
- ⑩ 彼の卒業後のドウセイが気になった。



2023B1

↓ここにシールを貼ってください↓

# 国語 解答用紙

受験番号							
名前							

問3	問1	二	問10	問8	問6	問5	問4	問3	問1	一
A						II	I	A		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
B	問2							B	問2	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
C								C		
<input type="checkbox"/>								<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
問4								D		
<input type="checkbox"/>								<input type="checkbox"/>		

が可能になる。

ために必要な知識。

ためではなく

			三	問9	問8	II	I	問7	問5
⑨	⑦	④	①					家族みんなが道の	X
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					に対して、	<input type="checkbox"/>
								をすべきだった。	Y
	⑧	⑤	②						<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						Z
									<input type="checkbox"/>
⑩									問6
<input type="checkbox"/>									<input type="checkbox"/>
		⑥	③						
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						